平成30年
8月21日
開催

みえ高校生県議会 開催レポート

高校生に、議会活動を体験してもらうことで議会に対する関心を高めてもらうとともに、高校生の意見を議会での議論に反映していくことを目的として、「みえ高校生県議会」を開催しました。平成26年に初めて開催し、3回目となる今回は県内11校から40人の高校生が参加しました。

QRコード
みえ高校生県議会当日の様子

事前交流会

今年度は新たな取り組みとして、高校生県議会の開催前に「事前交流会」を開催し、質問内容のブラッシュアップと生徒間の交流を行いました。全体の場で質問内容の発表と意見交換を行った後、グループに分かれて更に議論を深めていきました。

参加した高校生の感想

○自分達が考えた意見について、議員さんと対話を交えることで、より良い意見にすることができた。
○自分達と似たテーマでも、考え方・捉え方の違いでここまで差が出て、面白くなるのだと感じた。
○他校の人と話をする機会になってよかった。

桑名北高等学校

QRコード
桑名北高等学校

Q 質問　県内の学校における道徳教育について

私たち高校生を取り巻く環境は、いじめやSNSの問題等さまざまな課題があり、これらを解決していくためには道徳教育が大変重要になってくると思います。中学校までは道徳の時間がありますが、高校にはありません。本校では、道徳について学ぶ授業の一つとして、希望者を対象にコミュニケーション授業というものがあり、1年を通して保育所の園児と交流をしています。さまざまな体験を基にふりかえりを行うことで、他者の気持ちを考える力や、人とのコミュニケーションをより円滑に進める力が身につきました。こうした授業は、高校での道徳教育につながると思います。県内の高校では、このような取り組みはどのようなものがあるのでしょうか。

A 答弁　教育警察常任委員長（木津直樹）

県内の高等学校における道徳教育は、各学校において、各教育活動の役割分担や工夫・留意すべき点などを総合的に示した「道徳教育の全体計画」をたてて取り組んでおり、例えば、医師や助産師の講演から生命のかけがえのなさに気付いたりする取り組みや、警察と連携した規範意識を高める取り組みのほか、幼稚園児による幼いじの防止や出前授業など各学校でさまざまな取り組みが行われています。また、県教育委員会では、効果的な取り組みの情報提供を行い、道徳教育の一層の充実に取り組んでいます。本委員会としても、自他の命を大切にする心や思いやりの心、責任感、規範意識等豊かな心が育まれる教育活動が行われるよう、調査・審議を深めていきたいと考えています。

津田学園高等学校

QRコード
津田学園高等学校

Q 質問　三重県南部の人口減少に対する取り組みについて

三重県の人口動向を調査したところ、2007年にピークを迎えた後、減少に転じており、特に県南部の人口減少が著しいことが分かりました。その理由を考えたところ、そもそも私たち自身が県南部について、よく知らないことに気付きました。そこで、全校生徒に県南部に対するアンケート調査を行ったところ、魅力的と感じる人が多い一方で、利便性が悪い等の理由により、実際に訪れたいと思う人が少ないとの調査結果が得られました。県では、現在、県南部への移住促進や地域活性化に向けた取り組みを進めているところですが、私たちはその成果を実感できていません。そこで、これまでの取り組み成果や今後の展望について聞かせてください。

A 答弁　総務地域連携常任委員長（服部富男）

県では、県南部の活性化に向けて、「暮らしたくなる取組」、「住み続けたくなる取組」、「戻りたくなる取組」を3つの柱とし、さまざまな取り組みを展開しています。このうち、移住促進を図る「暮らしたくなる取組」では、県南部の暮らしを都市部の方に実体験してもら う機会の創出等を行った結果、移住者数が3年間で2.5倍になる等、徐々に成果が出始めています。今後も、集客交流等により産業振興を図る「住み続けたくなる取組」や高校生の郷土への愛着を高める「戻りたくなる取組」を同時に進めることで、県南部を活性化させていきたいと考えていますので、引き続き、皆さんも県南部に関心を持ち、課題解決に向けてご協力をお願いします。

四日市南高等学校

QRコード
四日市南高等学校

Q 質問　観光資源の持続的な経済活動について

三重県では総人口や生産年齢人口の減少が問題になっています。一方で県を訪れる観光客数は増加していることから、これを経済の活性化に生かしてはどうかと考えたところ、観光客数が飛躍的に増加するのは大きなイベントのある年だけで、持続させるには問題点があることに気が付きました。その1つが広報・宣伝活動の不足です。例えば、四日市市立博物館にはギネス世界記録に認定されているプラネタリウムがありますが、広報・宣伝活動に生かされていません。ほかにも交通機関の整備の遅れなど、さまざまな問題があるかと思いますが、こうした問題点をどの程度把握しているのか、また、現状と今後の対策をお聞かせください。

A 答弁　戦略企画雇用経済常任委員長（芳野正英）

問題点の1つ目、広報・宣伝活動不足については、例に挙がったプラネタリウムは三重県の公式観光サイト「観光みえ」で効果的に宣伝されていないので、今後はしっかりと取り組んでいこうと思います。2つ目の交通機関については、国や関係機関と連携した財政支援を行うとともに、海上交通も含めた幅広い利用促進に取り組んでいます。また、今後はリニア中央新幹線の開業に伴う波及効果を探っていきたいと思っています。観光政策の中でもネットを使った取り組みとして、「観光みえ」を活用した戦略的なウェブプロモーションや、インスタグラム等の写真投稿サイトの活用などがありますが、他にも若い高校生の発想でいろいろな提案をいただければと思います。

暁高等学校

QRコード
暁高等学校

Q 質問　若年層の防災意識向上に向けた新たな取り組みについて

現在、県では防災意識向上についての講演会や専門防災研修が実施されています。私たちの学校でも防災教室やボランティア活動などを行っており、防災意識を高めるきっかけになっています。しかし、生徒を対象とした「防災意識に関するアンケート」では、災害への関心は高いものの、大多数が災害時に具体的な行動を取ることができない（もしくは自信がない）と答えました。この現状を踏まえ、高校生の防災意識向上のための新たな施策についてお聞かせ下さい。例えば、高校生が主体となった講習会や飲食店等とタイアップした「防災みえ」のSNS登録キャンペーンを実施してはどうでしょうか。

A 答弁　防災県土整備企業常任委員長（小島智子）

県では、防災ノートの配布や体験型防災学習、学校防災リーダーを中心とした各校での防災活動などを実施しており、新しい取り組みへの着手より、現在の事業の拡大や充実に向けて取り組んでいきたいと考えています。また、県内には地域と連携した防災活動を行っている高校があり、暁高校でも学校の特性を生かした防災活動を実践していただくことを期待したいと思います。また、SNSの登録者数が少ないことは認識しており、より多くの方に登録いただけるよう一生懸命取り組むとともに、SNSが得意な年代の皆さんにも自ら広めることにお力をお借りしたいと思います。教えていただいた提案についても、今後委員会の中でしっかりと協議してまいります。

津高等学校

QRコード
津高等学校

Q 質問　三重県における国際交流の推進

国際交流事業であるJETプログラムについて調べた中で3点についてお尋ねします。1つ目は外国語指導助手（ALT）や国際交流員（CIR）の働き方について、参加者の中には、働き始めて3年以降は税金の関係で収入が減るため職を離れる人が多く、長期雇用を見据えた工夫の余地があると思います。2つ目は人数について、県のALT、CIRは学校数に対して少なすぎるため、数を増やすべきだと考えます。3つ目は出身国について、国際交流の面ではもう少し多くの国から招致する方が、多様性を生み、海外に目を向けるきっかけになると思います。これらを踏まえ、国際交流をどのように推進していくのか、お考えをお聞きします。

A 答弁　戦略企画雇用経済常任委員長（芳野正英）

1つ目の長期的な雇用については、JETプログラムは最長5年の制度ですので、その中で5年間ずっと継続できる取り組みが必要だと考えています。次に2つ目のALTの増員については、現在学校を掛け持ちしている方もいると思うので、質の向上を図っていきたいと考えています。そして3つ目の出身国の拡大について、県では英語圏の12か国+11か国のALTを配置しており、地域の特性を生かした英語教育をしてもらうとともに、ALT以外の部分でも積極的に国際交流を図っていこうと思っています。授業だけでなく、自ら海外へ飛び出していくなど、さまざまな機会をとらえて異文化に触れていただきたいと思います。

津西高等学校

QRコード
津西高等学校

Q 質問　自動車の利用とCO_2削減について

地球温暖化はCO_2が主な原因だと言われており、対策として三重県でも温室効果ガスについての条例が制定されています。私たちは、自動車利用を減らすことでCO_2を削減する3つの案を考えました。1つ目は自治体や道の駅とタイアップした訪問販売の拡大です。2つ目は公共発電自転車の開発と普及です。3つ目は宅配サービスと旅客の乗降、両方の機能を併せもつ小型バスの利用です。高齢者の自動車事故が問題視され、免許返納が求められる中、複数の客が乗車できるバスの利用に着目しました。これらの提案に取り組むことで、環境問題に地域で積極的に取り組め、地域の輪が広がっていくと考えます。ご検討お願いします。

A 答弁　環境生活農林水産常任委員長（廣耕太郎）

まず、1点目の提案については、自動車利用の削減のみならず、ビジネスモデルとしても機能することが考えられる一方、多様化する住民ニーズへの対応が問題となるなか、住民ニーズの把握と研究をしていきたいと考えています。2点目については、自転車が生み出す電力は極めて少量で、大量の自転車が必要となるため、身近な小型発電による省エネへと意識転換を促すことと合わせて研究していきたいと考えています。3点目については、昨年佐川急便と包括連携協定を結んだところで、バス事業者を交えて貨客混載事業の検討も進めています。本委員会としても、低炭素社会の実現に向けて議論を深めていきたいと考えています。

三重高等学校

QRコード
三重高等学校

Q 質問　三重県の教育と順位の捉え方について

私たちが通っていた小中学校では、徒競走の順位がつけられなかったりテストの順位が公表されなくなっていることを知りました。順位をつけると秀でている部分が評価され、切磋琢磨できるというメリットもありますが、いじめや冷やかしの原因となるというデメリットもあります。私たちがスポーツと勉強の順位に対する関心や感じ方のアンケートを行ったところ、順位についての賛否に成績の優劣は関係なく、また、勉強よりもスポーツの方が否定的な意見が多くありました。このアンケートから、順位はモチベーションになり、順位から個性の尊重や相互理解を学ぶべきだと思います。そこで、学校での教育活動で順位をつけることについての考えをお聞かせください。

A 答弁　教育警察常任委員長（木津直樹）

教育活動で順位をつけることは、それぞれの子どもが奮起するきっかけとなったり、自分が頑張った成果を見て、満足感を得られることもあると思いますが、一方で、過度な競争が煽られたり、負担に感じる子どももいることに配慮しつつ、学校における教育活動を進めていくことも必要ではないかと考えております。学校での教育活動の中で、どのような点に注意して学習すべきかに気付き、出来なかったことを克服することが大切ではないかと思います。時代を担う皆さまには、確固たる自己の軸を持ち、他者との絆を大切にしながら豊かな未来を切り開くような力を、学校教育を通じて、身に付けてほしいと思います。

セントヨゼフ女子学園高等学校

QRコード
セントヨゼフ女子学園高等学校

Q 質問　外国人の受け入れについて

外国人を受け入れ、「外国人に選ばれる三重県」をめざす政策を提案します。三重県は、周辺の都市へのアクセスも良く、県内にも企業が多いので住みやすい環境にあります。また、外国人は都道府県間を活発に移動しているので、子どもたちとも交流が生まれ、グローバル人材を育むことにつながり、さらには、新たな観光資源を生み出すかもしれません。一方で、受け入れた外国人と摩擦が起こる事例もあり、外国人へのサポートを充実させる必要があります。そこで、地方創生の視点で外国人を受け入れるため、どのような対策をとっていますか。また、異文化交流により新たな観光資源を生み出すことは可能と考えますか。

A 答弁　戦略企画雇用経済常任委員長（芳野正英）

外国人の受け入れについて、各市町で日常的な生活支援に取り組むとともに、三重県でも「三重県多文化共生社会づくり指針」の策定や外国人住民の意見を聞く「三重県外国人住民会議」の開催、医療通訳の育成や災害時の支援体制の整備などを行っており、今後も適切に対応していきたいと思っております。また、外国人が利用しやすいようにしていくことで、県外や国外の外国人観光客を呼び込む時のツールにもなるので、外国人の定住により新しい観光資源の創出は可能だと思います。永住と観光のどちらでも訪れやすくなるよう、しっかりと取り組んでいきたいと思います。

久居農林高等学校

QRコード
久居農林高等学校

Q 質問　三重県の「木育」施設について

三重県では平成26年から「みえ森と緑の県民税」が導入されており、森林整備だけでなく、「木育」にも使われていることを知りました。「木育」とは「木材利用に関する教育活動」のことです。県内では伊賀市や孤野町等に「森林公園」があります が、被災した森林が再生していく様子までわかる展示はありません。また、大阪万博記念公園のような樹の1番上を観察できる空中観察路も多くありません。そこで、従来の「森林公園」よりも安全で気軽に利用できる「環境教育林」及び「森林学習施設」の設置を提案したいと思います。木や森林を学べる施設が今こそ三重県には必要であると考えますが、ご意見をお聞かせください。

A 答弁　環境生活農林水産常任委員長（廣耕太郎）

県では「三重の森林づくり条例」を制定し、県民が森林について学ぶ機会の確保に努めており、森林環境教育を通じて森林に対する理解の促進に取り組んでいます。また、「みえ森づくりサポートセンター」を開設し、森林環境教育、木育活動のコーディネートなどに取り組んでいます。ほかにも森林や環境保全を学べる場として「美里水源の森」を整備していますが、県としてもこうした施設が各地域に必要だと考えており、関係機関と連携しながら森林環境教育や木育の充実を図っていきたいと考えています。本委員会としても、施設の充実や、森林環境教育、木育のさらなる促進に向けた議論をしていきたいと考えています。

名張高等学校

QRコード
名張高等学校

Q 質問　高齢者がいきいきと生活していくために

高齢者は交通事故を起こすリスクが高いと言われていますが、伊賀地域では車がなくては生活できない現状があり、運転免許を自主返納していない高齢者も多くいると考えています。宅配サービスに頼れば便利かもしれませんが、外出できないということは、高齢者の健康維持や自由な生活からはかけ離れていて、不自由なく暮らしているとはいいがたい現状です。また、多発するオレオレ詐欺や悪徳高法の被害、厳しい経済状態や体力の低下などにより弱者として虐げられるなど、高齢者の人権が脅かされています。県は高齢者がいきいきと生活していくために、どのような施策を行っているのでしょうか。

A 答弁　環境生活農林水産常任委員長（廣耕太郎）

県ではダイバーシティ社会や人権施策の推進、高齢者を取り巻く課題に対応するため、取り組み方針を策定しさまざまな取り組みを行っています。そのうち、「人権が尊重されるまちづくり」のための支援では、学習会・研修会に講師を派遣し、さまざまな団体等の取り組みを支援しています。次に運転免許の自主返納については、バスやタクシーの割引といったサポート事業を募集・公表し、自主返納しやすい環境整備に努めています。また、消費者被害の防止に関しては、三重県消費生活センターにおいて消費生活相談を行っています。今後もさまざまな関係機関等と連携・協働して、課題解決に向けて取り組みを推進していきたいと考えています。

紀南高等学校

QRコード
紀南高等学校

Q 質問　学校における中高校生の共助の意識向上や活動の普及について

今年2月、南海トラフ地震の今後30年以内の発生確率が70～80%という報道がありました。また、平成30年7月豪雨災害などの風水害も、毎年のように発生しています。災害時やその後の復旧・復興においては、ともに助け合う「共助」の精神が大切です。また、災害現場で自分なりの考えを持ち、自ら行動するには日頃からの行動の積み重ねが必要だと思います。私たちは「防災ノート」の活用を始め、救急法や災害ボランティアといった活動の普及を図りたいと考えています。今後、県内の中学校・高校において、災害時や復旧・復興における共助の意識向上や活動の普及はどのように図っていくのでしょうか。

A 答弁　教育警察常任委員長（木津直樹）

県では、防災学習を通じて子どもたちが地震や風水害などの自然災害に対して、自分の命は自分でまもる力を身につけることをめざしており、平成24年から県内の小・中・高・特別支援学校に、年齢に応じた防災教育の教材として「防災ノート」を配布し、学習に活用していただいています。さらに防災人材育成の観点から、平成28年度より「学校防災ボランティア事業」を実施しています。こうした県の取り組みを活用し、学習したことを家族で話し合い、地域の防災活動にも参加することが「共助」の意識向上につながると思います。みなさんの思いを県当局に伝えるとともに、委員会でも今後も議論を深めていきたいと考えています。

参加した高校生の感想

○ほかではできない経験ができてよかったです。
○ほかの高校の質問に対する答弁も今後の自分達に生かしていけると思いました。
○県議会議員という仕事にとても興味がわきました。
○自分の住んでいる地域の政策がどうなっているのか調べるのは面白かったです。

傍聴者の感想

○高校生が議会を身近に感じることができる良い機会であると思いました。
○自分にない視点が多くあり、勉強になりました。私たち若い世代の政治への関心が高まるこの機会を続けてほしいです。
○高校生ならではの視点で、身近な問題を考えるきっかけになりました。
○もう少し掘り下げた回答もいただけると嬉しいと感じました。

事前リハーサル

質問の様子

3名の高校生議長

副議長室で記念撮影

当日の様子は、三重県議会ホームページ、またはスマートフォンやタブレット端末からご覧いただけますので、ぜひご活用ください。
QRコードをスマートフォン等で読み取っていただくと、各校の録画配信をご覧いただけます。動画には手話通訳が付いています。